

景気動向調査

「(山形・秋田)県内企業の景気動向調査」(概要)

1 調査の目的

山形・秋田県内に本社を置く法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しについて調査を行い、景気の動向を把握することを目的とする。

2 調査の方法

すべての質問事項についてDI (Diffusion Index) 値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は「自社の業況DI値」= (「良い」と回答した企業の割合) - (「悪い」と回答した企業の割合)

3 調査期間

平成25年8月1日(木)~16日(金)

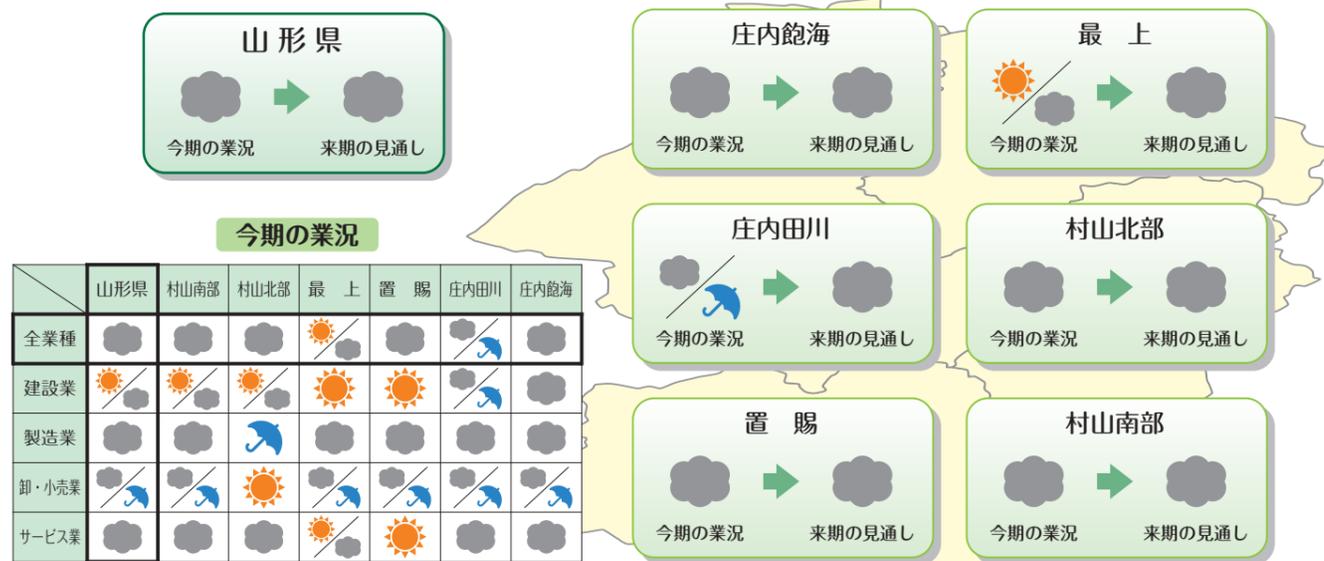
4 サンプル概要

アンケート対象企業 山形739社、秋田641社
有効回答数 山形485社、秋田432社
回答率 山形65.6%、秋田67.4%

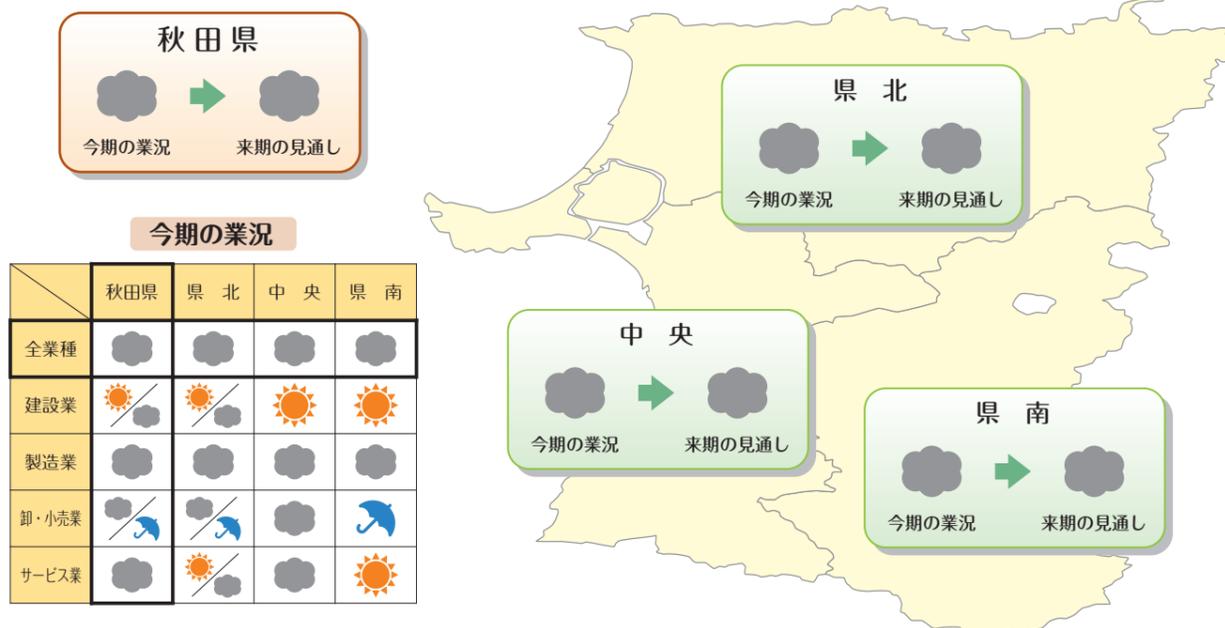
特に好調 DI≥30	好調 30>DI≥10	まあまあ 10>DI≥10	不振 ▲10>DI≥▲30	きわめて不振 ▲30>DI

景気天気図

第36回「山形県内企業の景気動向調査」



第9回「秋田県内企業の景気動向調査」



▶ 自社業況の動向

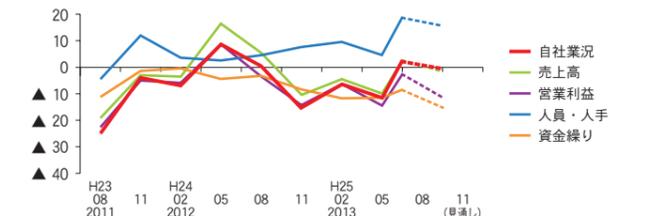
山形県の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲0.4(前回調査比5.4ポイント上昇)とDI値は依然としてマイナスの値ながら、5期ぶりに回復し、**県内景気には持ち直しの兆しが見られる**。先行き見通しは▲0.2(今回調査比0.2ポイント上昇)とほぼ横ばいの見込みとなっており、原材料の高騰などから先行きには慎重な姿勢が窺える。

秋田県の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」が2.3(前回調査比13.9ポイント上昇)と大きく改善して、4期ぶりにプラスに転じ、**足元の県内景気には持ち直しの動きが見られる**。先行き見通しは▲0.5(今回調査比2.8ポイント下落)と、若干悪化の見込み。原材料や燃料の高騰、電気料の上昇などから、依然慎重な姿勢が窺える。

図表1 山形「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表2 秋田「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



▶ 業種別の動向

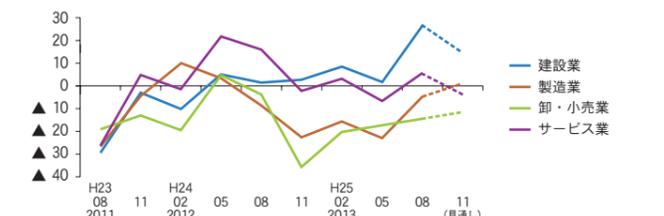
山形県の業況を業種別にみると、卸・小売業以外の3業種で回復した。回復要因として、建設業では公共事業の増加、製造業では円安による輸出企業の業況持ち直し、サービス業では個人消費の回復傾向などが考えられる。先行き見通しは製造業、卸・小売業で回復の見込みとなっており、製造業ではDI値がプラスに転じる見込み。

秋田県の業況を業種別にみると、建設業、製造業、サービス業がいずれも大きく改善したほか、卸・小売業でも小幅ながら3期連続の改善が見られた。この要因として、建設業では、公共工事の増加や消費税増税前の駆け込み需要による受注の増加、製造業では円安による輸出関連の持ち直しが考えられる。先行き見通しは建設業とサービス業で悪化の見込みとなっている。

図表3 山形・業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表4 秋田・業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



▶ 地域別の動向

山形県の業況を地域別にみると、庄内田川が▲11.1(前回調査比3.3ポイント下落)と悪化したものの、村山南部が▲2.4(前回調査比6.1ポイント上昇)、村山北部が▲0.0(前回調査比7.1ポイント上昇)、最上が12.3(前回調査比6.6ポイント上昇)、置賜が5.9(前回調査比16.5ポイント上昇)、庄内飽海が0.0(前回調査比2.1ポイント上昇)となり、**置賜でDI値がプラスに転じた**。先行き見通しは村山北部、庄内田川、庄内飽海で回復の見込みとなっている。

秋田県の業況を地域別にみると、3地域とも小幅ながらDI値がプラスに転じ、回復が見られた。中でも、県南では1.6(前回調査比17.2ポイント上昇)と大幅な改善となり、2011年8月の調査開始以降初めての「良い」超となった。先行き見通しは県北と中央ではほぼ横ばいが見込まれる一方、県南では小幅ながら悪化の見通しとなっている。

図表5 山形・地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表6 秋田・地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

